

## II 国勢調査で見る仙台市の姿

(※仙台市の数値は現在の市域に組み替えたものです。資料の制約上、組み替え可能な範囲で掲載しています。)

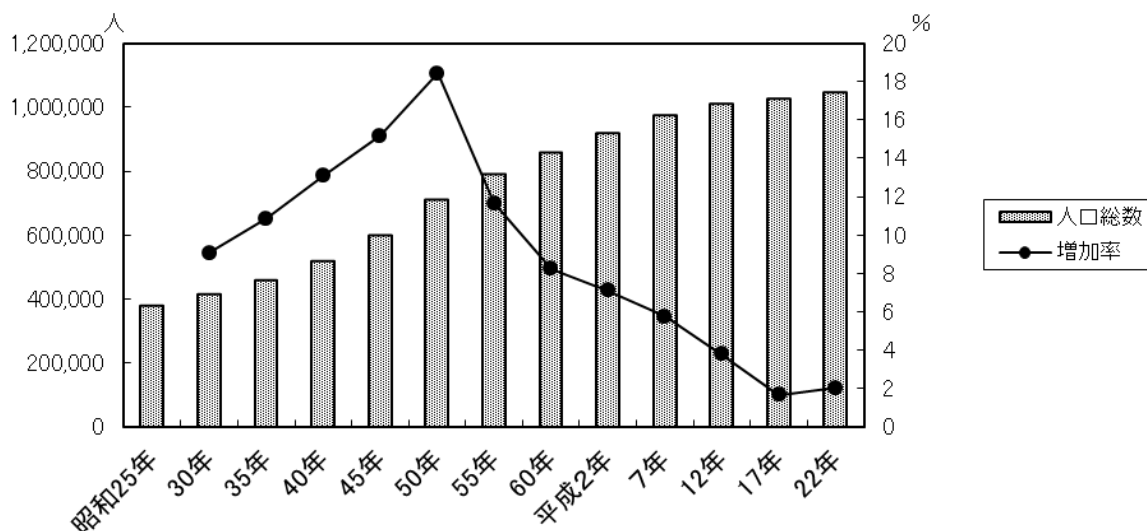
これまで実施された国勢調査の結果から、少子高齢化の状況、世帯構造の変化、働く女性の増加を中心として、仙台市の姿を紹介します。

### (1) 人口及び世帯

最初に人口と世帯の概況をみていきます。

仙台市の人口は調査を重ねるごとに増加を続けています。増加率は、第2次ベビーブーム（昭和46～49年）の出生数増加を反映した昭和50年をピークとして、以降伸び率は鈍化し、平成17年に1.7%まで低下しましたが、平成22年は昭和55年以降初めて前回の増加率を0.3ポイント上回り2.0%となりました。

第1図 人口及び人口増加率（昭和25年～平成22年）



第1表 人口及び世帯数（昭和25年～平成22年）

年次	世帯数総数	人口					1世帯当たりの人員
		総数	男	女	対前回国勢調査		
					増加数	増加率(%)	
昭和25年	73,308	380,217	194,285	185,932	-	-	5.2
30年	84,790	414,775	204,534	210,241	34,558	9.1	4.9
35年	108,640	459,876	227,201	232,675	45,101	10.9	4.2
40年	137,205	520,059	256,965	263,094	60,183	13.1	3.8
45年	176,348	598,950	296,898	302,052	78,891	15.2	3.4
50年	225,854	709,326	351,623	357,703	110,376	18.4	3.1
55年	273,142	792,036	393,642	398,394	82,710	11.7	2.9
60年	300,713	857,335	425,984	431,351	65,299	8.2	2.9
平成2年	340,904	918,398	454,954	463,444	61,063	7.1	2.7
7年	387,292	971,297	480,684	490,613	52,899	5.8	2.5
12年	421,182	1,008,130	496,270	511,860	36,833	3.8	2.4
17年	439,579	1,025,098	500,597	524,501	16,968	1.7	2.3
22年	465,260	1,045,986	507,833	538,153	20,888	2.0	2.2

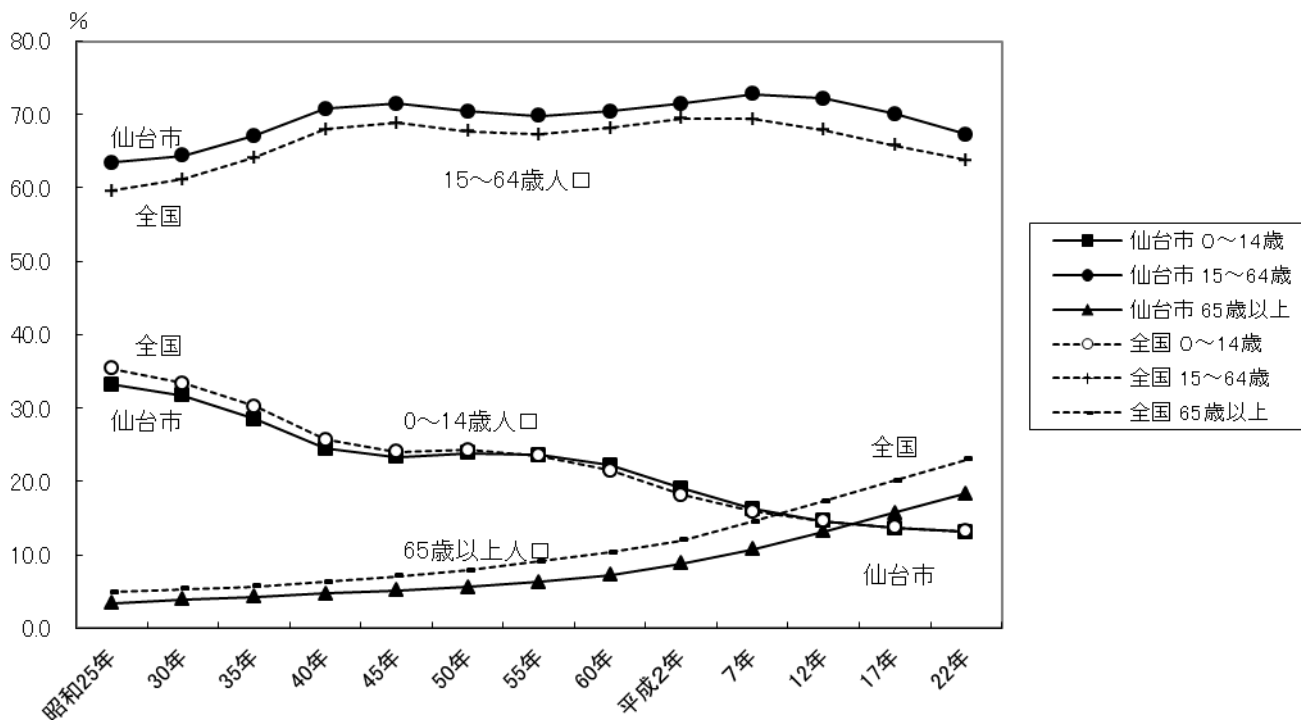
※世帯数とは、一般世帯数と施設等の世帯数の合計。

人口総数を年齢3区分別構成比で見ると、0～14歳人口（年少人口）の割合は昭和55年以降縮小が続き、平成22年は13.1%と国勢調査開始以来最低となった一方、65歳以上人口（老年人口）の割合は昭和25年以降拡大を続け、平成22年は18.3%となり、少子高齢化の進展をデータからうかがうことができます。

15～64歳人口（生産年齢人口）の割合は、昭和40年以降、概ね70～72%台で推移していましたが、平成22年は70%を下回り、67.3%となりました。

平成22年の全国値と比較すると、仙台市は、生産年齢人口の割合が高く、老年人口割合が低い構成となっています。

第2図 年齢（3区分）別人口割合（昭和25年～平成22年）



第2表 年齢（3区分）別人口割合（昭和25年～平成22年）

年次	仙台市				全国			
	総数※	0～14歳	15～64歳	65歳以上	総数※	0～14歳	15～64歳	65歳以上
昭和25年	100.0	33.2	63.4	3.4	100.0	35.4	59.6	4.9
30年	100.0	31.7	64.4	3.9	100.0	33.4	61.2	5.3
35年	100.0	28.5	67.1	4.3	100.0	30.2	64.1	5.7
40年	100.0	24.5	70.8	4.7	100.0	25.7	68.0	6.3
45年	100.0	23.3	71.5	5.2	100.0	24.0	68.9	7.1
50年	100.0	23.9	70.4	5.6	100.0	24.3	67.7	7.9
55年	100.0	23.6	69.8	6.3	100.0	23.5	67.3	9.1
60年	100.0	22.2	70.4	7.3	100.0	21.5	68.2	10.3
平成2年	100.0	19.1	71.5	8.8	100.0	18.2	69.5	12.0
7年	100.0	16.3	72.8	10.8	100.0	15.9	69.4	14.5
12年	100.0	14.6	72.2	13.2	100.0	14.6	67.9	17.3
17年	100.0	13.7	70.1	15.8	100.0	13.7	65.8	20.1
22年	100.0	13.1	67.3	18.3	100.0	13.2	63.8	23.0

※年齢不詳を含む。

次に、世帯についてみていきます。

仙台市の世帯数も一貫して増加を続けていますが、1世帯あたりの人員をみると、昭和25年は5.2人でしたが、平成22年は2.2人と、減少を続けています。

一般世帯数を世帯人員別にみると、1人世帯が188,567世帯と最も多く、世帯人員が多くなるほど世帯数は少なくなっています。

平成17年～22年の増減をみると、世帯人員が少なくなるほど増加率が高くなっており、世帯人員が3人以下の世帯ではいずれも増加しているのに対し、4人以上の世帯ではいずれも減少しており、特に7人以上の世帯では20%以上減少しています。

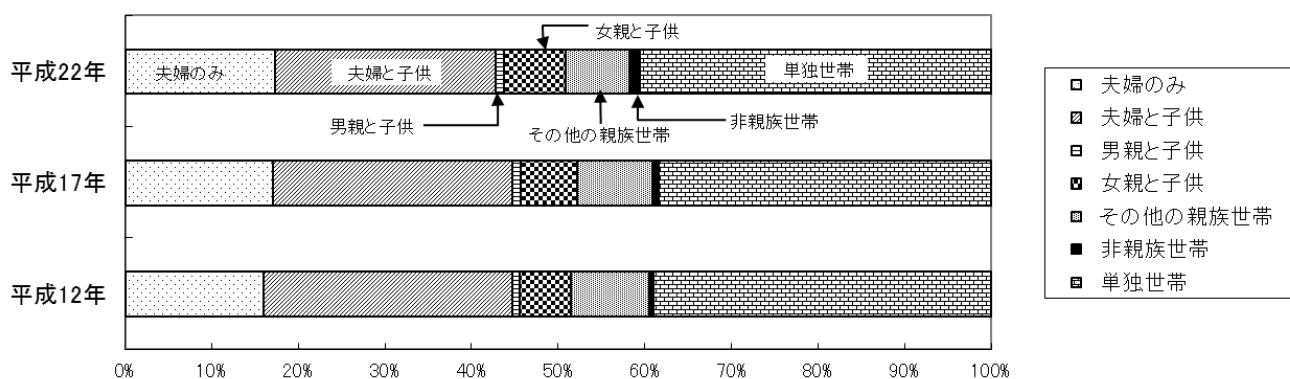
第3表 世帯人員別一般世帯数（平成12年～平成22年）

世帯人員別	一般世帯数(世帯)			構成比(%)			増加数		増加率(%)	
	平成12年	平成17年	平成22年	平成12年	平成17年	平成22年	12～17	17～22	12～17	17～22
総数	420,368	434,539	464,640	100.0	100.0	100.0	14,171	30,101	3.4	6.9
1人	164,095	167,269	188,567	39.0	38.5	40.6	3,174	21,298	1.9	12.7
2人	90,441	102,305	113,546	21.5	23.5	24.4	11,864	11,241	13.1	11.0
3人	69,438	74,290	77,807	16.5	17.1	16.7	4,852	3,517	7.0	4.7
4人	61,531	60,437	58,163	14.6	13.9	12.5	△ 1,094	△ 2,274	△ 1.8	△ 3.8
5人	22,307	19,643	17,877	5.3	4.5	3.8	△ 2,664	△ 1,766	△ 11.9	△ 9.0
6人	8,401	7,237	6,033	2.0	1.7	1.3	△ 1,164	△ 1,204	△ 13.9	△ 16.6
7人以上	4,155	3,358	2,647	1.0	0.8	0.6	△ 797	△ 711	△ 19.2	△ 21.2

また、一般世帯数を家族類型別にみると、最も多い家族類型は「単独世帯」で188,567世帯（一般世帯の40.6%）となっており、「夫婦と子供から成る世帯」は118,453世帯（同25.5%）、「夫婦のみの世帯」は80,082世帯（同17.2%）などとなっています。

平成17年と比べると、「単独世帯」は12.7%増となっており、一般世帯に占める割合は2.1ポイント増加しています。「夫婦のみの世帯」は8%増、一般世帯に占める割合は0.1ポイント増加しています。一方「夫婦と子供から成る世帯」は1.1%減となっており、一般世帯に占める割合は2.1ポイント減少しています。

第3図 一般世帯の家族類型別世帯数の構成比（平成12年～平成22年）



第4表 世帯の家族類型別一般世帯数（平成12年～平成22年）

世帯の家族類型	一般世帯数(世帯)			構成比(%)			増加数		増加率(%)	
	平成12年	平成17年	平成22年	平成12年	平成17年	平成22年	12～17	17～22	12～17	17～22
総数	420,368	434,539	464,640	100.0	100.0	100.0	14171	30101	3.4	6.9
親族世帯*1	254,359	264,082	270,448	60.5	60.8	58.2	9723	6366	3.8	2.4
核家族世帯	216,120	226,777	236,107	51.4	52.2	50.8	10657	9330	4.9	4.1
夫婦のみ	66,991	74,143	80,082	15.9	17.1	17.2	7152	5939	10.7	8.0
夫婦と子供	120,764	119,764	118,453	28.7	27.6	25.5	△ 1000	△ 1311	△ 0.8	△ 1.1
男親と子供	3,536	4,160	4,573	0.8	1.0	1.0	624	413	17.6	9.9
女親と子供	24,829	28,710	32,999	5.9	6.6	7.1	3881	4289	15.6	14.9
その他の親族世帯*2	38,239	37,305	34,341	9.1	8.6	7.4	△ 934	△ 2964	△ 2.4	△ 7.9
非親族世帯*3	1,914	3,188	5,531	0.5	0.7	1.2	1274	2343	66.6	73.5
単身世帯	164,095	167,269	188,567	39.0	38.5	40.6	3174	21298	1.9	12.7

※平成22年結果の表記は\*1「親族のみの世帯」\*2「核家族以外の世帯」\*3「非親族を含む世帯」となる。

※平成22年の総数には、世帯の家族類型「不詳」を含む。



➤ **人口（昭和30年以降の調査）**

国勢調査における人口は、調査年の10月1日午前0時現在の「常住人口」です。

「常住人口」とは、当該住居に3か月以上にわたって住んでいるか、又は住むことになっている者をいい、3か月以上にわたって住んでいる住居又は住むことになっている住居のない者は、調査時にいた場所に「常住している者」とみなしています。

➤ **年齢（昭和40年以降の調査）**

調査日前日による満年齢です。なお、10月1日午前0時に生まれた人も、0歳としています。

➤ **世帯の種類（昭和60年以降の調査）**

世帯は「一般世帯」と「施設等の世帯」に区分しています。

「一般世帯」とは、次のとおりです。

- (1) 住居と生計を共にしている人の集まりまたは一戸を構えて住んでいる単身者
- (2) 上記の世帯と住居を共にし、別に生計を維持している曲りの単身者又は下宿屋などに下宿している単身者
- (3) 会社・団体・商店・官公庁などの寄宿舎、独身寮などに居住している単身者



➤ **世帯の家族類型**

一般世帯を、その世帯員の世帯主との続き柄により、次のとおり区分した分類をいいます。

- 親族のみの世帯…二人以上の世帯員からなる世帯のうち、世帯主と親族関係にある世帯員からなる世帯
- 非親族を含む世帯…二人以上の世帯員からなる世帯のうち、世帯主と親族関係にない人がいる世帯
- 単身世帯…世帯人員が一人の世帯

また、親族のみの世帯については、その親族の中で原則として最も若い世帯の夫婦とその他の親族世帯員との関係によって、さらに区分されています。

◇ 核家族世帯…夫婦のみの世帯・夫婦と子供から成る世帯・男親と子供から成る世帯・女親と子供から成る世帯

◇ 核家族以外の世帯…夫婦と両親から成る世帯、夫婦、子供と両親から成る世帯、兄弟姉妹のみから成る世帯等

「核家族世帯」に含まれない世帯

\* 平成22年以前の調査では、「親族のみの世帯」、「非親族を含む世帯」、「核家族以外の世帯」は、「親族世帯」、「非親族世帯」、「その他の親族世帯」としています。

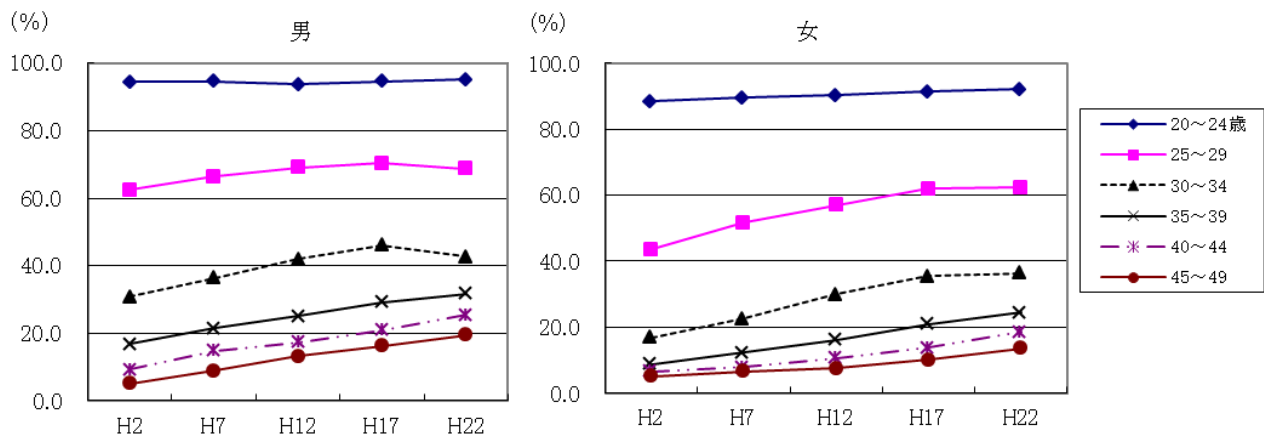
(2) 未婚の状況

少子化の要因の一つといわれる未婚の状況をみていきます。

年齢階級（20～49歳の5歳階級）別に未婚率の推移をみると、平成2年以降、前を下回ったのは、平成12年の男性20～24歳、平成22年の男性25～34歳のみです。また、平成22年の未婚率は、男女とも全ての年齢階級で、平成2年のそれを上回っています。

特に、女性の20～34歳については、高学歴化と社会進出の進展等に伴う様々なライフスタイルの変化や結婚観の多様化等を反映してか、未婚率が大幅に上昇しており、出産の中心となる年齢層の未婚率の上昇傾向が、少子化の要因の一つとなっているとも考えられます。

第4図 特定の年齢（20歳～49歳）の男女別未婚率（平成2年～平成22年）



第5表 特定の年齢（20歳～49歳）の男女別未婚率（平成2年～平成12年）

年齢階級	男					女				
	平成2年	7年	12年	17年	22年	平成2年	7年	12年	17年	22年
20～24歳	94.5	94.6	93.8	94.7	95.2	88.4	89.6	90.4	91.3	92.1
25～29歳	62.5	66.5	69.2	70.4	68.7	43.6	51.7	57.0	61.9	62.3
30～34歳	30.8	36.3	42.0	46.2	42.7	16.8	22.7	30.0	35.4	36.5
35～39歳	16.7	21.5	25.0	29.1	31.8	8.8	12.4	16.2	21.0	24.5
40～44歳	9.1	14.8	17.3	20.9	25.4	6.7	8.0	10.7	13.8	18.6
45～49歳	5.1	8.8	13.2	16.3	19.6	5.1	6.6	7.4	10.0	13.6

※ 年齢不詳を除いて算出



➤ 配偶関係

届出の有無にかかわらず、実際の状態により、次のとおり区分しています。

- 未婚……まだ結婚したことのない人
- 有配偶…届出の有無に関係なく、妻又は夫のある人
- 死別……妻又は夫と死別して独身の人
- 離別……妻又は夫と離別して独身の人



### (3) 働く女性の増加

働く女性の増加について労働力状態からみると、平成22年の労働力人口は214,255人で労働力率は49.2%、平成2年に比べ労働力人口は42,408人増加し、労働力率は3.4ポイント上昇しています。

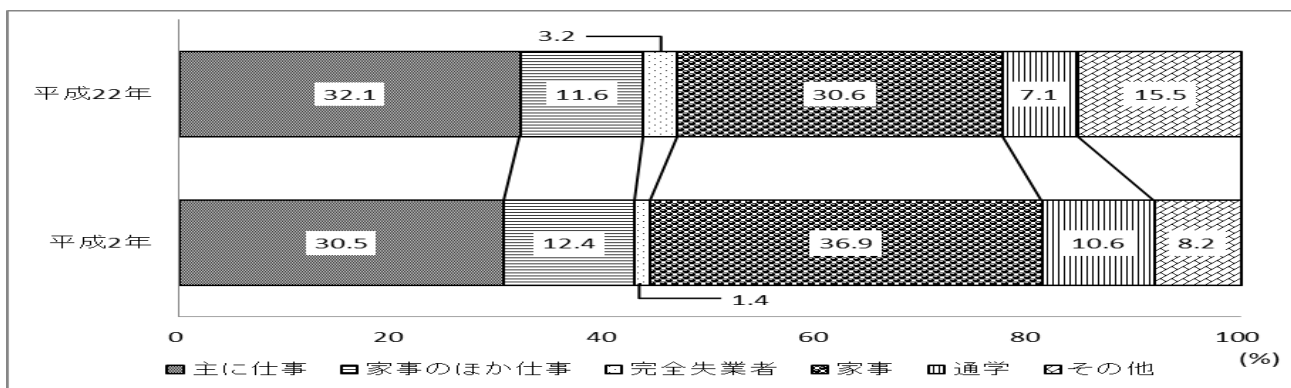
労働力状態別の割合について、いわゆる男女雇用機会均等法が施行された直後の平成2年と平成22年を比較すると、「主に仕事」の割合が上昇し、「家事」及び「家事の他仕事」の割合が低下しています。

第6表 女性の労働力状態（平成2年～平成22年）

女性の労働力状態	実数(人)					労働力率(%)				
	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
15歳以上人口(*)	376,261	412,790	440,057	454,265	466,526	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
労働力人口	171,847	196,595	206,192	208,251	214,255	45.8	47.9	47.7	47.8	49.2
就業者	166,660	188,086	195,757	195,053	200,524	44.4	45.9	45.3	44.7	46.0
主に仕事	114,433	125,852	136,719	131,084	139,770	30.5	30.7	31.6	30.1	32.1
家事のほか仕事	46,576	54,690	50,279	54,706	50,560	12.4	13.3	11.6	12.5	11.6
通学のかたわら仕事	4,022	5,497	5,903	5,829	6,104	1.1	1.3	1.4	1.3	1.4
休業者	1,629	2,047	2,856	3,434	4,090	0.4	0.5	0.7	0.8	0.9
完全失業者	5,187	8,509	10,435	13,198	13,731	1.4	2.1	2.4	3.0	3.2
非労働力人口	203,522	213,485	225,798	227,761	221,395	54.2	52.1	52.3	52.2	50.8

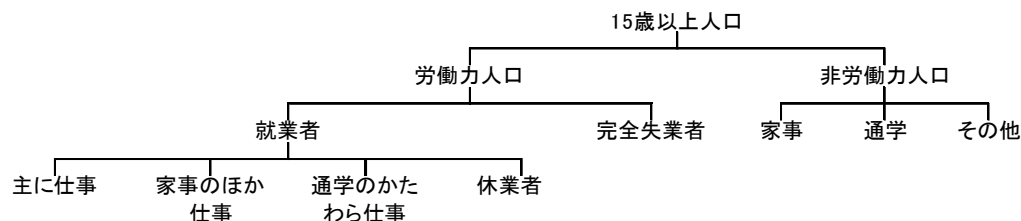
(\*)15歳以上人口には、労働力状態「不詳」を含む。

第5図 女性の労働力状態別の15歳以上人口割合（平成2年・平成22年）



#### 労働力状態

15歳以上の人について、調査年の9月24日から30日までの1週間に「仕事をしたかどうかの別」により、次のとおり区分したものです。



次に、女性の労働力率を年齢別（5歳階級）にみてみます。

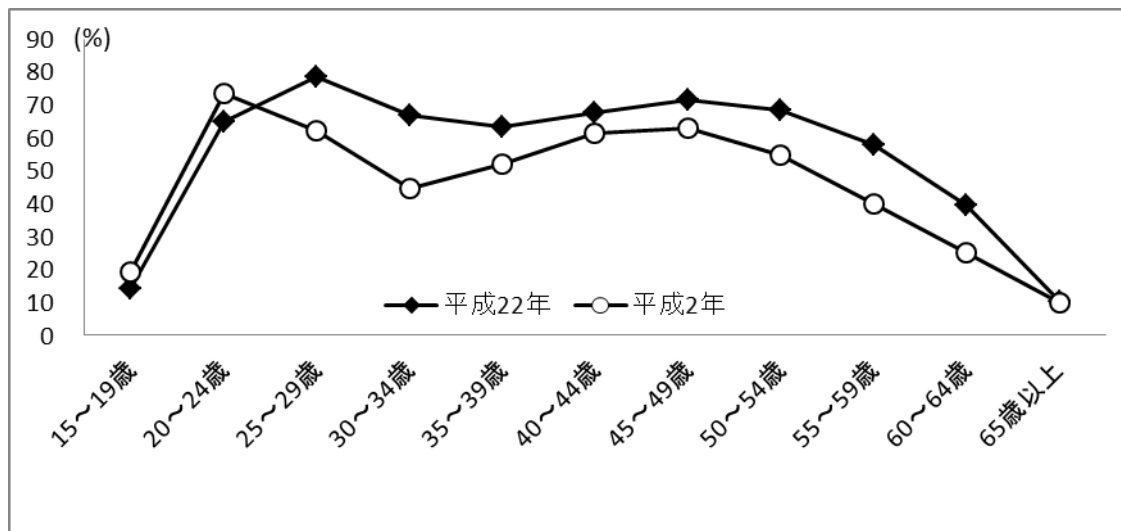
平成22年の女性の労働力率は25～29歳と45～49歳を頂点とし、35～39歳を谷とするM字カーブとなっています。平成2年以降、25歳以上の各年齢階級では上昇傾向となっています。

平成22年を平成2年と比較すると、20～24歳は8.4ポイント低下し、一方25～29歳は16.1ポイント上昇したことにより、M字カーブの最初の頂点は25～29歳に移行しています。また、平成2年にM字カーブの谷となっていた30～34歳は22.2ポイント上昇し、67%となり、M字カーブの谷は35～39歳に移行しています。

第7表 女性の年齢別（5歳階級）労働力率の推移（平成2年～平成22年）

	労働力率(%)				
	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
総数	45.7	46.8	46.4	46.1	47.5
15～19歳	19.2	16.1	14.8	14.8	14.3
20～24歳	73.3	71.4	67.5	64.9	64.9
25～29歳	62.3	67.6	70.6	72.8	78.4
30～34歳	44.8	49.1	53.9	59.5	67.0
35～39歳	52.2	51.1	54.0	57.5	63.5
40～44歳	61.3	62.2	62.5	64.8	67.8
45～49歳	62.8	65.3	66.3	68.6	71.4
50～54歳	54.7	59.3	61.5	63.4	68.4
55～59歳	40.1	47.8	50.1	53.1	57.7
60～64歳	25.3	28.6	30.4	32.6	39.4
65歳以上	10.0	10.7	9.8	9.5	10.2

第6図 女性の年齢別（5歳階級）労働力率の推移（平成2年・平成22年）



労働力率

15歳以上人口（労働力状態「不詳」を除く。）に占める労働力人口の割合のことをいいます。

$$\text{労働力率(\%)} = \frac{\text{労働力人口}}{\text{15歳以上人口（労働力状態「不詳」を除く。）}} \times 100$$

#### (4) 高齢者の状況

高齢人口については(1)人口及び世帯 で簡単に紹介していますが、ここでは65歳以上の高齢者の状況についてみていきます。

平成22年の65歳以上人口(191,722人)は全人口(1,045,986人)の18.3%を占めています。男女別にみると、男性は82,075人で、男性総数に占める割合は16.2%、女性は109,647人で20.4%となっています。

女性100人に対する男性の数を示す人口性比は年齢が上昇するほど低下しており、65～69歳では91.3%ですが、85歳以上では41.7%まで低下し、男性は女性の半数以下となっています。

第8表 65歳以上人口(平成12年～平成22年)

男女・年齢	平成12年			平成17年			平成22年		
	割合	性比		割合	性比		割合	性比	
総数									
65歳以上	133,020	13.2	73.7	161,795	15.8	74.5	191,722	18.3	74.9
65～69歳	45,287	4.5	86.1	48,626	4.7	89.3	55,699	5.3	91.3
70～74歳	36,559	3.6	83.0	42,647	4.2	81.8	45,962	4.4	84.2
75～79歳	25,203	2.5	66.2	33,252	3.2	76.0	38,671	3.7	74.4
80～84歳	14,575	1.4	57.9	21,060	2.1	58.5	27,905	2.7	65.7
85歳以上	11,396	1.1	44.1	16,210	1.6	42.0	23,485	2.2	41.7
<参考>									
総人口※	1,008,130	100.0	97.0	1,025,098	100.0	95.4	1,045,986	100.0	94.4
男									
65歳以上	56,419	11.4		69,050	13.8		82,075	16.2	
65～69歳	20,956	4.2		22,938	4.6		26,585	5.2	
70～74歳	16,586	3.3		19,183	3.8		21,009	4.1	
75～79歳	10,041	2.0		14,361	2.9		16,499	3.2	
80～84歳	5,346	1.1		7,777	1.6		11,065	2.2	
85歳以上	3,490	0.7		4,791	1.0		6,917	1.4	
<参考>									
総数※	496,270	100.0		500,597	100.0		507,833	100.0	
女									
65歳以上	76,601	15.0		92,745	17.7		109,647	20.4	
65～69歳	24,331	4.8		25,688	4.9		29,114	5.4	
70～74歳	19,973	3.9		23,464	4.5		24,953	4.6	
75～79歳	15,162	3.0		18,891	3.6		22,172	4.1	
80～84歳	9,229	1.8		13,283	2.5		16,840	3.1	
85歳以上	7,906	1.5		11,419	2.2		16,568	3.1	
<参考>									
総数※	511,860	100.0		524,501	100.0		538,153	100.0	

※年齢不詳を含む。

次に、高齢者の単身者数と高齢夫婦世帯の状況をみてみます。

一般世帯のうち、65歳以上の単独世帯(高齢単身者)は30,467世帯で、平成17年に比べ6,224世帯(25.7%)増加しており、特に80歳以上について増加率が高くなっています。

また、夫と妻がともに65歳以上の高齢夫婦世帯は29,289世帯で、平成17年に比べ5,475世帯(23.0%)の増加となっています。



第9表 65歳以上人口の高齢者単身世数（平成17年・平成22年）

年齢別	平成17年			平成22年			増加率(%)		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	24,243	6,376	17,867	30,467	8,238	22,229	25.7	29.2	24.4
65～69歳	6,175	2,161	4,014	7,630	3,007	4,623	23.6	39.1	15.2
70～74歳	6,134	1,618	4,516	6,890	2,007	4,883	12.3	24.0	8.1
75～79歳	5,775	1,278	4,497	6,657	1,453	5,204	15.3	13.7	15.7
80～84歳	3,845	787	3,058	5,415	1,008	4,407	40.8	28.1	44.1
85歳以上	2,314	532	1,782	3,875	763	3,112	67.5	43.4	74.6

第10表 夫婦とも65歳以上の高齢夫婦世帯数（平成17年・平成22年）

妻の年齢 夫の年齢	平成17年			平成22年			増加率(%)		
	65～74歳	75～84歳	85歳以上	65～74歳	75～84歳	85歳以上	65～74歳	75～84歳	85歳以上
総数	17,112	6,364	338	19,286	9,205	798	12.7	44.6	136.1
65～74歳	11,765	501	4	13,430	611	5	14.2	22.0	25.0
75～84歳	5,280	4,730	61	5,778	7,065	128	9.4	49.4	109.8
85歳以上	67	1,133	271	78	1,529	665	16.4	35.0	145.4

**CHECK!**

➤ **高齢単身世帯**

65歳以上の人一人のみの一般世帯 \*昭和55年及び60年の調査では、定義が若干異なります。

➤ **高齢夫婦世帯**

夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯をいいます。

